

ハイデルベルク信仰問答より

問 127 第六の願いは、何ですか。

答え 「われらを試みに会わせず、悪より救い出したまえ」であります。私たちは大層弱いので、一瞬たりとも独りで立っていることができませんし、その上私たちの不倶戴天^{ふぐたいてん}の敵、悪魔、この世、および私たち自身の罪が、絶え間なく、烈しく攻め立てますので、遂に、私たちが完全な勝利をおさめるまで、彼らに向かって堅く立ち、この霊の戦いに打ち負かされないために、聖霊の力によって私たちを守り、強めてください、ということであります。

〔別訳〕

答え 「われらをこころみにあわせず、悪より救い出したまえ」です。すなわち、わたしたちは自分自身あまりに弱く、ほんの一時立っていることさえできません。その上わたしたちの恐ろしい敵である悪魔やこの世、また自分自身の肉が、絶え間なく攻撃をしかけてまいます。ですから、どうかあなたの聖霊の力によって、わたしたちを保ち、強めてくださり、わたしたちがそれらに激しく抵抗し、この霊の戦いに敗れることなく、ついには完全な勝利を収められるようにしてください、ということです。

「われらを試みに会わせず、悪より救い出したまえ」――

主の祈りの最後の願いは、私たちが霊的な戦いの中に生きていることを、静かに、しかし力強く告げています。私たちが日々直面するのは、目に見える問題だけではなく、心の中に湧き上がる誘惑、価値観を揺るがす世の流れ、そして何よりも、自分の中にある弱さや欲望……。それらが絶えず私たちを揺さぶり、時に倒れさせようとします。

「試み」と訳されているこの言葉には、「誘惑」と「試練」の両方の意味が重なっています。つまり私たちは、人生の困難の中で、信仰から離れてしまう危険といつも隣り合わせにいます。だからこそ、この祈りは「私たちには自力で勝てない」という前提に立っています。「試み」の厄介さは誰もが認識していることでしょう。それは私たちに何らかの意味で道を踏み外させようとする力です。「誘惑」は「悪魔、この世、および私たち自身の罪」によって接近し、「試練」は時に私たちの信仰を試すために悪魔が闊歩するのを神が許容されるところでもたらされることがあります。いずれにせよ、信仰者はそれらと直面するときに忍耐が試されるのですが、その時に重要なことは本当に目を向けるべきところへ向けるということです。誘惑は無理に戦おうとするとかえって火に油が注がれる傾向があり、試練はその時が過ぎ去るまで私たちから離れてはいきません。いずれも肉の力で戦って勝てる相手ではないことを銘記しておく必要があります。だからこそ私たちは、あらゆる誘惑と試練を御言葉によって斥けられた勝利者イエスに目を向けて歩いていくのです（マタイ 4:1-11）。

この祈りは、敗北者の告白ではなく、「神の力にすがる者」の決意です。「**聖霊の力によって私たちを守り、強めてください**」——それは、ただ助けを乞うだけでなく、神の力を信じて立ち上がる祈りでもあります。自分の力に頼るとき、私たちはしばしば失敗します。しかし、神の力により頼むとき、不思議な平安と守りが与えられます。それは必ずしも、状況が直ちに好転することを意味しません。けれども、「どんな試練の中でも、神が共におられる」という確信が、心の奥底に宿るのです。そして、私たちが手に取るにふさわしい武具は**御言葉**です。主イエスが誘惑の時にも試練の時にも、常に聖句を引用して敵を斥けておられた姿を思い出しましょう。

ある牧師は、「信仰生活とは、絶えず自分の足元を見つめ、転びそうになる自分を神の手に委ねる旅だ」と語っていました。私たちがどんなに弱くても、そのことを正直に神に打ち明けるとき、神は豊かなあわれみをもって、私たちを支えてくださいます。この祈りが私たちに教えてくれるのは、「完全な勝利」は今ここではなく、「**ついに**」——すなわち終わりの日に与えられるということ。だからこそ私たちは、「今日」という日を信仰のうちに歩むことに集中するのです。主の再臨の日（そして私たちの人生の終わりの日）まで、絶えず「聖なる方」に目を向けながら、確信をもってこう祈ります。

「主よ、どうか今日も、聖霊の力と御言葉によって私たちを支えてください。悪に引きずられそうなきには、私たちの目をあなたに向けさせてください。」

この祈りは、「勝利の宣言」でもあります。私たちは最終的に、キリストにあって勝利者とされる。だから今日もまた、この祈りと共に歩みましょう。

「われらを試みに会わせず、悪より救い出したまえ。」